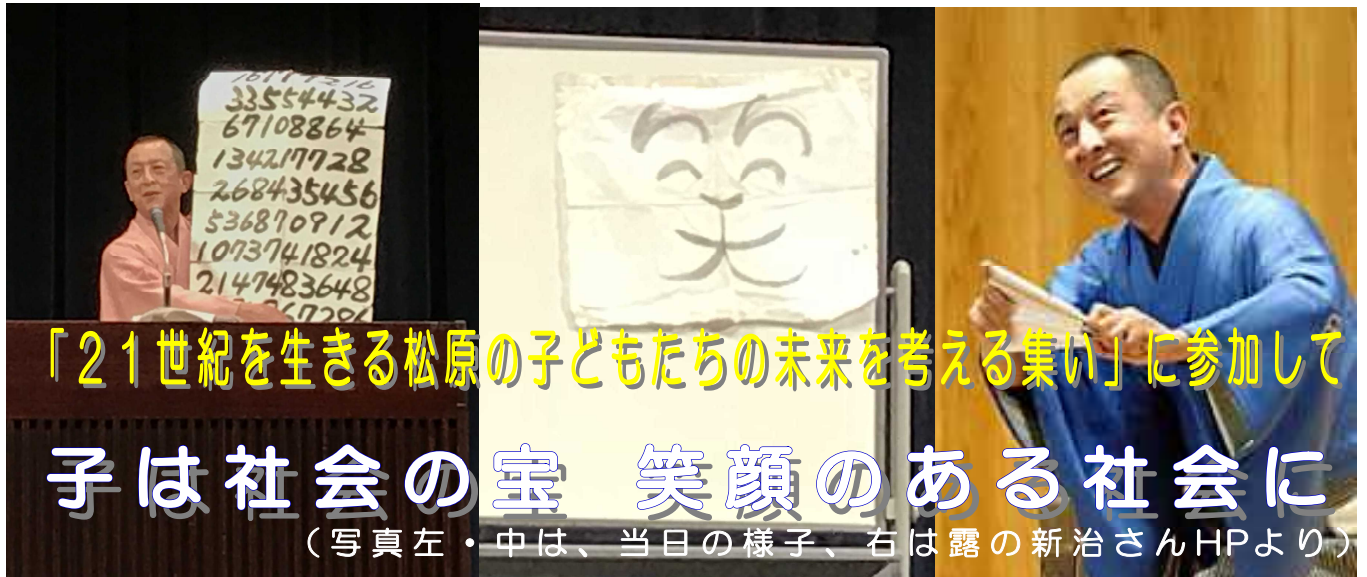


校長室だより

第12号

平成29年10月26日

MOTTAI NA I (もったいない)



10月18日(水)松原市文化会館にて、「21世紀を生きる松原の子どもたちの未来を考える集い」が開催されました。今年度の講師は落語家、露の新治さん「お笑い人権高座と落語」でした。お笑い人権高座は、笑いに包まれながらも、笑い笑顔が、どれほど人権豊かな社会にとって大切であるか、とりわけ社会の宝である子どもの成長にとって大切であるかを、わかりやすく楽しく聞かせていただき、深く考えることのできる集会となりました。

お話しの冒頭、「人が本当に心から笑う事ができる状況とは、社会や家庭が平和だから、落ち着いているから」というお話がありました。「逆に、戦争や大きな天災に見舞われたとき、大病や大けがをしたとき、笑顔や笑いが消えるでしょう」には、納得しました。“笑顔は最大の教育環境である”と言いますが、笑い笑顔の意味をあらためて深く考えることができました。

露のさん自身、子どもを持つ立場になって、我が子の下世話や鼻水を吸ってあげることさえ愛おしい存在であることに気づき、実は自分も親にそうやって育てられ、我が子に命と恩を贈っていることにも気づいたと。それが人間社会なんだとお話しされました。

また、大阪と東京の違いについて、痴漢防止のポスターの標語をあげ、「気をつけよう、甘い言葉と暗い道(東京ー被害者の女性へのメッセージ)」と「痴漢アカン(大阪ー男性へのメッセージ)」を比較され、大阪の人権感覚にも触れられました。

我々大人が豊かな人権感覚を持って、次世代の子どもに、命と恩を贈って生きていく意味と責任を楽しく考えた集会となりました。

無意識の力と空気感

先日、ある雑誌に「無意識の力と教育」というコラムがあった。子どもを育てるのは、情報や知識もあるが、それ以上に家庭に和やかな空気が流れているか、学校にみんなが勉強に励みたくなるような空気があるかと。そして、家庭ではその空気をつくるのは父母であり、会社では経営者であり、学校では校長の責任だと。

学校の空気感を生み出す校長の資質として、「人間性が豊かであるためには、校長は人生経験が豊富でなくてはなりません。…貧困や病気で苦労した。勉強もたいしてできなかったが頑張って大学まで行った。…人生経験が乏しい人間が教師になること、ましてや校長になることは、同僚にとっても子どもたちにとっても不幸なことです。…学歴ぐらいしか自慢の種がない人は無意識の土壌が痩せ細っており、その周囲から人が育っていきません」と。最後に「子どもたちが…創造的に表現する方法を見つけられるよう手助けするのが…豊かな人生を生きている教師の使命です」と、断言されていました。

とても身の引き締まるコラムでした。私はと言うと、父親の炭鉱の閉山で、転職。それに伴う二度の転校。成績不振に非行、貧乏も感じて育ちました。しかし、何より、一生懸命働く親の姿に考えさせられ、中3のクラスで勉強が楽しい仲間、先生に出会い、高校へ進学できました。振り返ると、父母や先生・クラスメートへの感謝の念が浮かびます。

このコラム、広島大学の名誉教授・町田宗鳳さんの記事で、“ありがとう寺”住職でもあります。無意識の力・空気感、それは、ありがとうの感謝の思いを人と結べることかなとも思いました。



一日一日が成長

天美小学校の運動会の翌週、天美保育園、四つ葉幼稚園、第四保育所と3つの保育園・所、幼稚園の運動会を参観した。小学校もそうだが、子どもも一生懸命、応援する保護者・家族も大きな声援を送る運動会。その熱い雰囲気が良い。

競技の合間に、ある保育関係者と子どもの育ちについて話になった。「2学期が始まって、子どもたちが一回り大きくなりました」と言うのと、「就学前は、一日一日で変化し成長しますよ」と。なるほど。思い当たる節があった。

3月から同居を始めた息子一家。2歳半になる孫が、先日、両手を丸めて「どっちだ？」と問題を出してきた。「こっち！」と答えた後、「疑問文を話せるんやね!？」と成長に笑みがこぼれた。

小学校も、学期や節目で子どもたちは大きく成長します。今月末の「天美っ子生活総合発表会」での、子どもの節目での成長を観て感じてください。

こちらが癒やされて…

先日、長年子どもの見守り活動をしていただいた皆様に、松原市教育委員会より感謝状が届きました。学校の子どもたちを見守っていただいていることに対して、学校からの感謝の思いも届けるべく、見守り隊の方のお宅にお届けに回りました。

そこで、「この度、長年の見守り活動に対して、市教委より感謝状が届きました。いつも子どもたちを見守っていただきありがとうございます。今後とも…」と感謝の言葉を述べると、見守り隊の皆様から「感謝状をわざわざ届けていただいて…」「一軒一軒ご苦労様です…」等など、逆にこちらをねぎらってくださる言葉を多数いただきました。

そして、思いました。こんな温かい目で子どもたちを見守っていただいているんだと。自転車をこいで、お届けに回るペダルも軽くなりました。

